

発行責任者
酒井 保

〒270-1471 千葉県船橋市小室町3166
TEL 047-490-6500



平成15年度 総会のご案内

2003.11.13

関東浪速工業会、今年度の総会を左記の通り開催いたしますので、ご多忙中のことと思いますが、万障お繰り合わせの上ぜひご参集ください

日時 11月13日(木) 18時~21時
場所 グランドヒル市ヶ谷

TEL:03-3268-0111
新宿区市ヶ谷本村町4-1

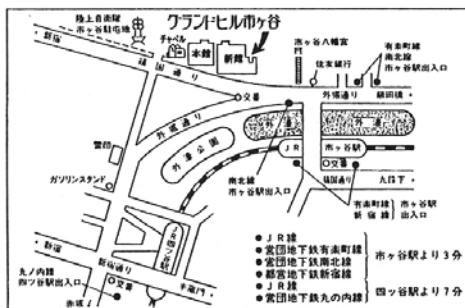
●親睦会費 8,000円(女性会員は4,000円)
●平成元年度以降卒業会員は無料!
●同封の返信はがきに出欠をご記入の上必ず投函して下さい。

☆講演会・(M18)小川 玉泉氏 俳句アラカルト



クラブヒル市ヶ谷

同級生等お誘い合わせの上多数のご参加をお待ちしております!



平成14年度 総会出席者名簿

来賓	西井 清美理事長、竹田 剛学校長 近江 巳紀夫 元科学技術庁長官(A29)	
機械科 11名	M14松原 滋 M20宮崎信雄 M26上田英雄 M26榎本健治 M41川本正治 清水一三雄 先生	M18小川勝宏 M24神島 章 M26玉城元市郎 M34石川芳夫 M42前田範行
建築科 9名	A15松原 正 A28岡田宏三 A28森田幸博 A28岩井浩一 A45田辺孝次	A25西原 勲 A28酒井 保 A37森 芳信 A44水守恵子
電気科 15名	E16戸部 輔 E20真崎静夫 E29岩崎亮平 E30向田郁夫 E35田中 浩 E36石垣英明 E37岩崎 徹 E43田中巳晴	E18平野榮一 E27有井 章 E29川村栄男 E32牧 秀行 E36赤尾仁史 E36馬江治喜 E38奥野 剛
土木科 7名	C9 西谷通晴 C18秋月勝美 C20榎本嘉信 C33寺坂雅宏	C18大倉 肇 C18北里直行 C33松本信行
工業化学科 2名	CI34柴田孝次	CI37五十嵐三喜雄

昨年の出席者は合計 44名+来賓3名でした

見学会に参加して
[M39] 伍賀 安三
毎年実施している見学会に今回初めて参加させて頂きました。今秋の見学会の場所はアサヒビール茨城工場です。5月の会報で案内があり「目的は勿論出来立てビールの試飲です。夏の真つ盛りさぞかし美味いだらうと想像すると、いとも立ってしまいました。即申し込みました。
一ヶ月待つて7月26日(土)やうときた感が出て、上野より常磐線で取手駅で乗り換え、関東鉄道常総線南守谷駅下車。私達は今回はおいしいビールを飲めるので妻も出席させて頂きました。静岡の三島より乗車したので延べ3時間の道程でした。
駅に降りたらこの夏を象徴するかのよう涼しく雨模様、ビールを飲むには?駅前には同じ様な人達がと思ったら、都工会のみなさんで総勢13人。自己紹介もそこそこ迎えるバスでアサヒビールへ出発。
工場では、ビールが出来るまでの映画を見て、おいしいビールを造る為の品質管理の大変さと、大切な従業員のビールにかける情熱を知りました。その後工場見学をして、さらに詳しい説明を受け一層ノドが……!
見学会が終了最上階、展望台の試飲会場へ行きました。出来たての、ほとんど空気に触れていないアサヒスーパードライと黒ビールの飲み放題とこちらも時間も制限があり、美味たのは三杯位かな。期待以上に美味しかったです。いや本当に美味い。
ここでやっと全員の顔を覚えられ、アルコールも少し入って会話が弾み、懇親がはかれました。(本当はもう少し時間が有れば!)ほとんどの皆さんが、私より先

第二の人生を頑張っておられ都工生の意気揚々とされてる姿を垣間見て非常に元氣付けられました。久しぶりの休日、良い気分転換を図ることが出来、明日からの活力が湧いて来る気がしました。
最後にこういつたチャンスを作った下さった諸先輩に対し感謝致します。
参加者: A28酒井、A28森田、A37森、A57信原父子、M28榎本、C18秋月、CI40菅家、E35田中、E36石垣、E36馬江、M39伍賀夫婦 計13名でした。

「C20」榎本 嘉信
学生時代に三木 清の「語られる技術」なる書物に大変感動したことがある。
昨年長かった会社勤務から開放され、自分の人生の大半をタム建設に関連する技術に携わってきた事に思いを致す時、あらためて冒頭に記した「語られる技術」を「語られる技術」に置き換えて考えた。我々技術者は戦後幾度と培ってきた技術も幾多の失敗の積み重ねの上にも今日の技術があるのではないだろうか? 技術的な失敗は多くある場合ほとんど語られることが無いのが実情であり、原発の事故などを見ても明らかである。技

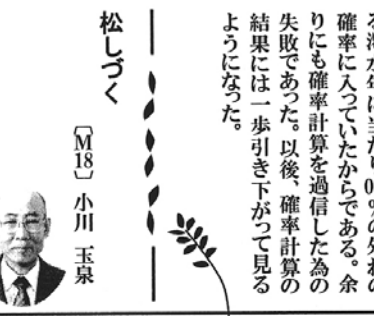
術的失敗は会社、個人にとつて公表できない事情がその時々にある。しかし個人として、折にふれて後輩たちに語り継ぐべきであり、これが科学技術の発展に是非と考えられる。
次に、私の失敗を一つあげることにする。それは昭和38年、電源開発(株)の池原ダム建設の大詰めに迫った頃、ダム湛水についての検討を行った時の事である。ダム下流に有名な「滯八丁」があり、これに対する、観光放流を行いつつながら貯水した場合、何月何日にダムが満水となるかとの命題を与えられ、過去30年間の雨量データを基に毎日の流量計算と貯水量を解析し、統計計算を行った。その結果、○月○日に99.9%の確率で満水となる予測をした。現実はずっとおりにはならなかった。この年は稀に見る渇水年に当たり、0.5%の外れの確率に入っていたからである。余りにも確率計算を過信した為の失敗であった。以後、確率計算の結果には一歩引き下がつて見るようになった。

「M18」小川 玉泉
屋顔の砂丘の演習地
花弁の穠れを見せし柿田川
雨しぶく天水麗や施餓鬼寺
送り火や雨の名残りの松しづく
網戸より風の通へりシャボンの香
蝉声にふくらみ杜の朝ほらけ
屋台の灯めがけて蝉の狂ひ鳴き
われも和す神輿納めの三拍子
川尻に茜の残り船涼し
手秤に露置く稲穂軽やかな



「C20」榎本 嘉信
「語られる技術」シリーズ

「M18」小川 玉泉
屋顔の砂丘の演習地
花弁の穠れを見せし柿田川
雨しぶく天水麗や施餓鬼寺
送り火や雨の名残りの松しづく
網戸より風の通へりシャボンの香
蝉声にふくらみ杜の朝ほらけ
屋台の灯めがけて蝉の狂ひ鳴き
われも和す神輿納めの三拍子
川尻に茜の残り船涼し
手秤に露置く稲穂軽やかな

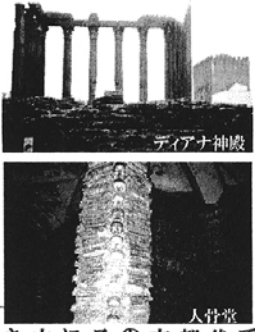


「C20」榎本 嘉信
「語られる技術」シリーズ

「M18」小川 玉泉
屋顔の砂丘の演習地
花弁の穠れを見せし柿田川
雨しぶく天水麗や施餓鬼寺
送り火や雨の名残りの松しづく
網戸より風の通へりシャボンの香
蝉声にふくらみ杜の朝ほらけ
屋台の灯めがけて蝉の狂ひ鳴き
われも和す神輿納めの三拍子
川尻に茜の残り船涼し
手秤に露置く稲穂軽やかな

白日夢の大地に建つ 聖堂、人骨堂

〔A27〕 田中 瑛也



スペイン南部アンダルシア地方、豪華なアルハンブラ宮殿、イスラム文化を垣間見た余韻に浸る間もなくポルトガルとの国境を越える。国境を越えた地方は、アンテージュ地方で、首都リスボンから眺めてテージュ川の向こう側という意味で名付けられた。概してポルトガルの国土は、スペインの国土に比べて緑地が多いといわれるが、またこの地方は、スペインの風景の延長で広漠とした大地に点在する白壁、赤い瓦屋根の集落が点在する南国風景、国境にある町バダホスを通ってバスは西へ西へと走る。起伏のない平原にあらわれた巨大な水道橋は国境よりわずかに14kmの場所にある町、エルヴァスであることを示す。下車して橋に近付くと、橋脚の表面は風化されていく、年数を経ていない。実はこの水道橋は、ローマ時代に建設したのでなく、16、17世紀にかけて建てられた水道橋であり、因みに橋の長さ7kmにおよび、4層からなる景観は、壮大でイベリア半島で最大規模の水道橋である。

ところで16、17世紀という時代は、わが国とポルトガルとの交流華やかな時代で、天正遣欧少年使節団が、リスボンに到着した年は1584年で、彼らはこの

アンテージュ地方を訪れたことは、巷に知られているが、この地方の中心都市エヴォラの大聖堂で大司教と接見した。ローマ時代に構築された市壁に囲まれた都市、エヴォラはイスラム勢力の支配下におかれた時代は、商業の中心都市として栄え、レコンキスタを経てキリスト教徒の手中に戻り、ジェズイット派の信仰の中心地として、カテドラルを築き大聖堂も設置して一大文教都市の様相を呈した。都市の古さを顕示するディアナ神殿は、イベリア半島に遺されたローマ遺跡としては、貴重な神殿ではあるが規模が小さくやや失望感を感じる。しかしこの都市の建物で見落とせないのが、そびえ建つゴシック聖堂、サンフランシスコ聖堂に隣接して建つ人骨堂である。ここにある我々の骨と髪は、あなた方を待っている。と小さな入り口のまぐさポルトガル語で書かれている。室内は赤いランプが灯り、異相の空間へと人々を誘う。

建物の下地は、勿論石造りだが、壁面は、人骨が整然と積み重ねられ、骨で支えられているかの様に造られて、まさに建物が入骨で造られているとの想を抱く。凡そ5000人の人骨を費やして造られたこの聖堂は、16世紀キリスト教徒の内部でのカトリックとプロテスタントとの抗争が、活発化した時代であり、北方ヨーロッパでは新教徒が宗教運動に功を奏したが、南欧では、宗教運動の力が立ち上り、教会の室内は、目も暗まらばかりの金の装飾におおわれている。その環境で欲を捨て、信仰の原点に返れとの原理主義からの信念として信者がこの聖堂の建立に発起したのである。

この信念は、東洋の思想である仏教で信徒なら、だれしも存じている般若心経「色即是空、空即是色」の世界である。色は外界の物、一切は空である。人は死して肉は骨と化す。したがって心のみが拠り所である。法話で美人を見て、浮気心が起きたら、骸骨の姿を思い浮かべよとの教えをつぶさに感じた。巨大なユーラシア大陸、東の国、日本の国ポルトガル、距離は離れていても、同じ人間である事を見たポルトガルの白日夢であった。

関東浪速工業会の幹事として

〔C137〕 五十嵐 三喜雄

私は昨年40年近く勤めた会社を59歳にて早期退職し、現在無職の身であります。最近、関東浪速工業会の幹事となり、約三ヶ月毎に開催される幹事会に出席させて頂く様になりました。

現在の幹事会は昭和18年卒業の大先輩、及び各先輩が、お仕事を忙しうにボランティア精神を発揮され活躍されております。又、舎密会は34年卒業の柴田氏が現在当会の代表幹事として頂いております。氏は会社の現役で代表取締役社長として御活躍中であり、又日常お忙しいので不肖ながら私が舎密会を代表して幹事会に出席するようになりました。

そこで感じましたのは、舎密会の会員の会費納入者の少なさを、特に舎密会会員は現在関東地区に52名の在住者が居られる様です。しかし昨年度の会費納入率は21%・11人しかなく各科の中でも最低で、幹事として少し恥ずかしい思いを感じております。せめて30%台の納入率には

したく、私も微力ながら協力をしようと思っておりますので皆様の御協力を是非とも宜しくお願い申し上げます。

又当会も、日本国と同じく、会員の老齢化が進んでおり、現在若い会員の増加に力を入れていきます。そこで関東在住者の舎密会会員諸氏は、まず会費の払い込みも是非お願いしたいのですが、今年の関東浪速工業会 総会が11月13日(木)に決定しました。この総会にも出来るだけ多くの会員が出席して頂きたく思っております。

私は従来、会費は継続して払い込んでまいりましたが、総会には何となく出席しにくく出ていませんでした。しかし昨年、以前の会社の同期の都工卒業者と思いつつ一緒に参加してよかつたと思っております。色々なタイプと、経歴をお持ちの大先輩のお話を聞いていただけでも、楽しくこれからの人生の参考になる事も多く、得るものも多いと思っております。

まずは会費納入と総会への出席をお願いしまして、新米幹事就任としての感想を報告させていただきます。

関東青晝会「奥多摩ハイキング」に参加して

〔A44〕 水守 恵子

平成15年9月6日(土)初秋と云うより遅れてきた夏の日曜日朝、JR奥多摩駅に10名が無事予定時刻に集合し、東日原に向けてバスに乗り込みました。30分近く乗車後、徒歩で30分かけて「日原鍾乳洞」に到着。

入口に立ったとたん心地よい冷気に包まれながら薄暗い中、足元おぼつかなく恐る恐る奥へと進んでいきました。中は高低差が激しく石段及びその場には不似合いの鉄骨階段を昇り降りしながら進んで行きました。やはり不釣り合いの蛍光灯に照らされながらも歴史ある天然記念物(鍾乳石)を老若男女、家族連れ、観光客の方々とコースをともしながら堪能しました。外に出たら蒸し暑い夏の現実の世界が待っていました。

溪流近くで昼食をとり、日原川(多摩川)のそばでイワナ・ニジマス談義に花が咲き、しばし大自然の中に身をゆだねて、ゆったりとした時を過ごすことが出来ました。帰りは満員のバスで駅まで揺られ、近くの温泉「もえぎの湯」にて入浴、奥多摩の緑を眺めながらの露天風呂は最高でした。食事の後解散。充実した一日を終えることが出来たのは幹事さんのおかげです。いつも思うのですが多忙な中、前準備等本場に有難うございました。

参加者 A25西原、A27清井、A28岡田、A28酒井、A28田中、A37森、A38岩井、A45田辺、A57信原、A44水守 計10名

桂米左の会へのお誘い

前号Mニュースでも予告させていただきましたが、大阪で活躍中の桂米朝門下の落語家・桂米左氏(A59年卒)の東京での独演会が今年も行われます。上方落語のひとときを一緒に楽しみませんか。開演日時 平成15年11月23日(日) 13時30分開演 15時30分終了予定 場所 東京・日本橋

「お江戸 日本橋亭」

入場券 2000円

申込締切 11月7日

申込方法 卒科・年・氏名・住所を郵送またはEメールにてA科47・西口勝臣までお知らせください。入場券及び案内パンフレットを申込者に郵送します。代金は券受取後に西口宛に送金してください。申込時に先に送金していただいても結構です。

住所 〒230-0845 千葉県船橋市山手2-6-2-108
E-mail: nishiguchi@nikken.co.jp

平成15年度関東浪速工業会 各科代表幹事のご紹介

機械科	M34	石川 芳夫
建築科	A57	信原 利行
土木科	C33	松本 信行
電気科	E36	馬江 治喜
工業化学	C134	柴田 孝次

訃報

M11卒	尾本 芳太郎氏	平成14年11月ご逝去
M13卒	安部 省三氏	平成15年9月10日ご逝去
M16卒	長沢 鉄雄氏	平成14年9月ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。